



# 古賀市学校施設 長寿命化計画

概要版

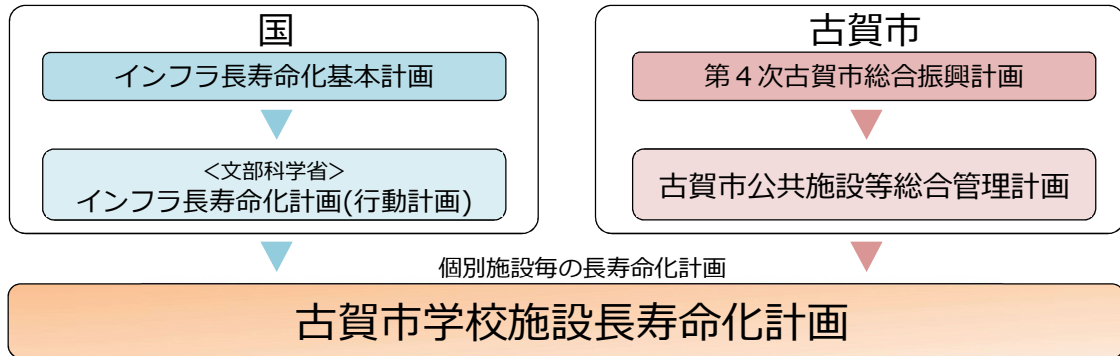
古賀市教育委員会



計画の背景・目的

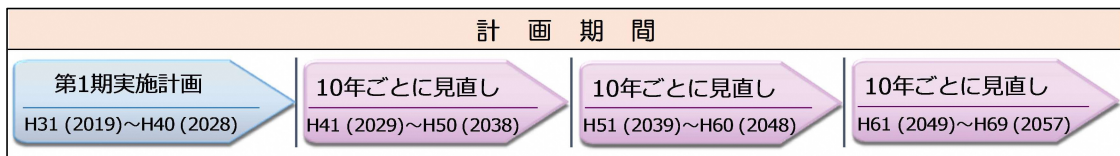
老朽化の進む学校施設の現状と課題を把握し、これまでの「事後保全」から「計画的な予防保全」へと維持管理手法をシフトすることで、建物を良好な状態に保つと共に、長寿命化により財政負担の縮減や平準化を図り、使用年数を延ばすことを目的とします。

計画の位置付け



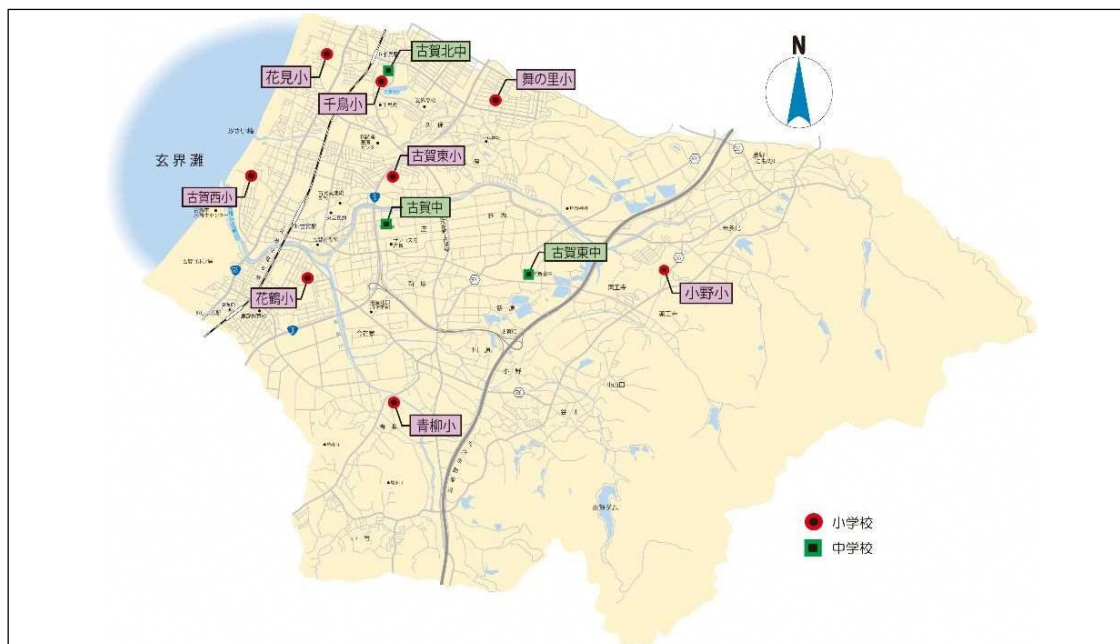
計画期間

建物の寿命が数十年におよび、社会情勢の変化など中長期的な視点が不可欠であることから、今後 40 年間の長期計画と、10 年間の具体的な整備計画を策定します。



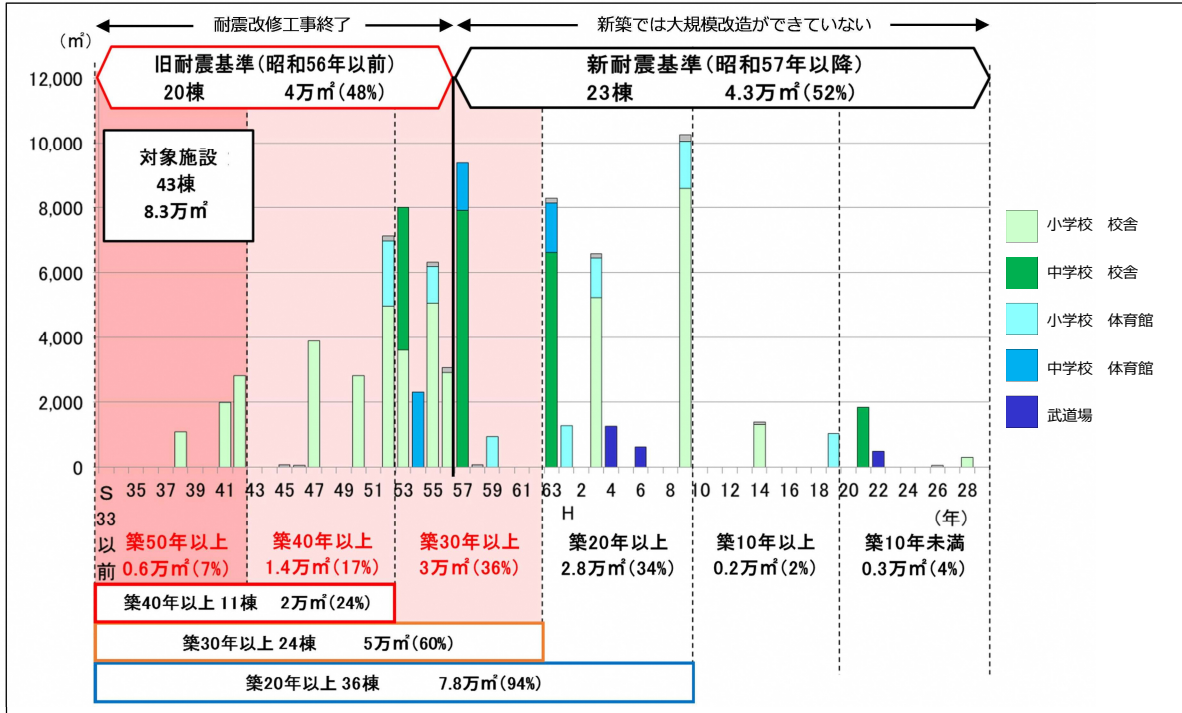
対象施設

- 本計画の対象となる学校は、小学校8校、中学校3校の計11校。
- 学校施設は、校舎、体育館、プール棟、武道場。



学校施設の現状

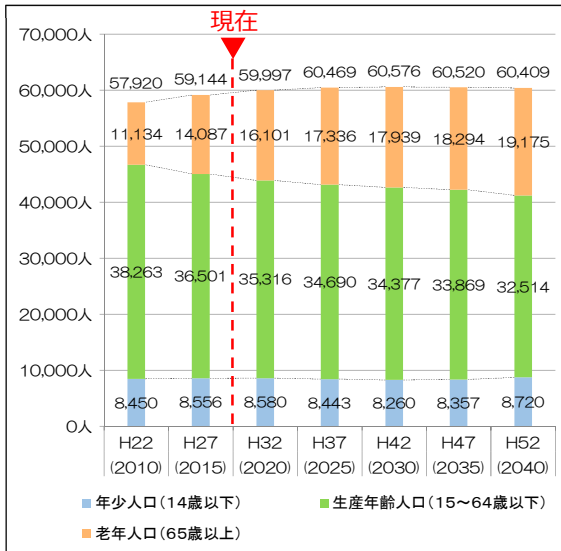
- 学校数は全 11 校、延床面積は約 8.3 万㎡。
- 築 30 年以上の施設が全体の 60%を占め、老朽化対策が課題となっています。



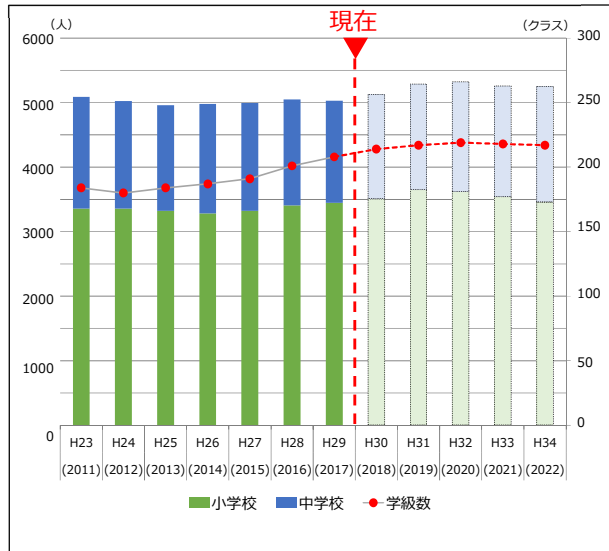
人口および児童生徒数の推計

- 平成 29(2017)年時点で人口約 5.8 万人。平成 52(2040)年において“6 万人規模を維持”することをめざします。
- 児童生徒数は、この先 5 年間に於いては、大きな変動は見られないと考えられますが、学校により増減に差があります。

<将来人口推計 (パターン別の年齢3区分別人口)>



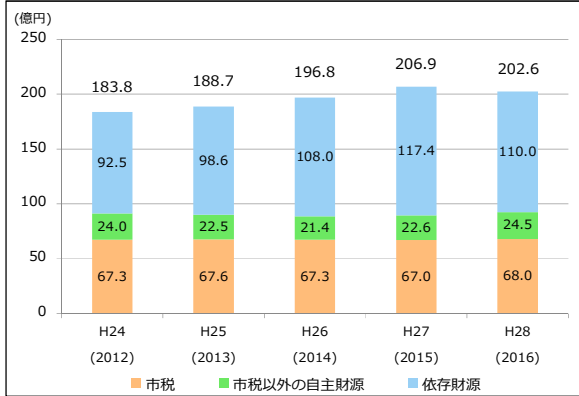
<児童生徒数および学級数の推移と将来推計>



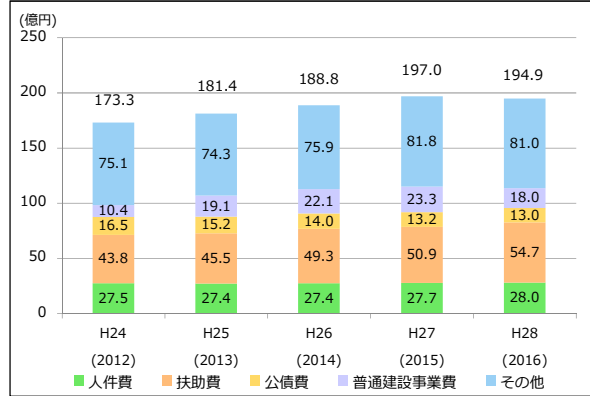
## 財政状況の傾向

市税収入の伸びが見込めず、高齢化の進展により扶助費が増大していく財政状況から、今後普通建設事業費の確保が難しくなると見込まれ、学校施設整備にかかるコストの縮減が必要です。

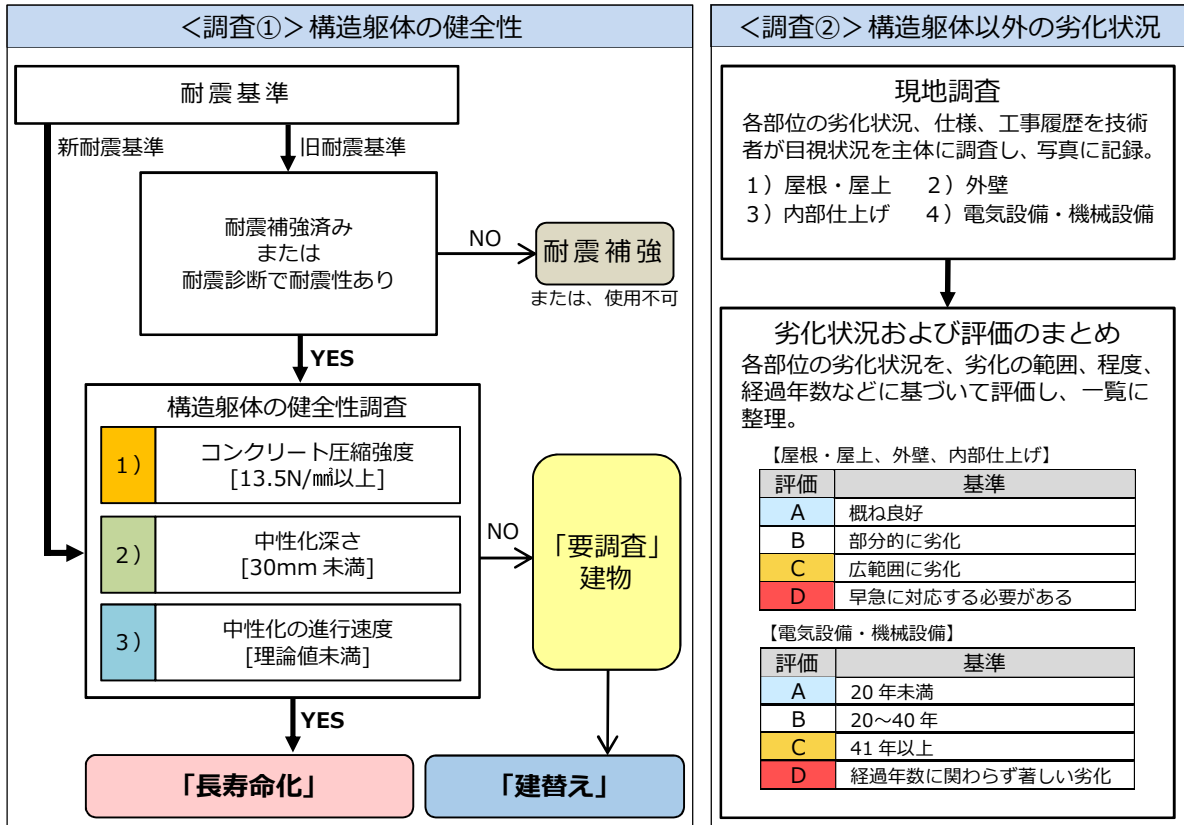
<普通会計決算（歳入）の推移>



<普通会計決算（歳出）の推移>



## 学校施設の老朽化状況



### 【評価結果】

- 全ての校舎および体育館において、構造躯体は健全で十分な耐力があり、“長寿命化が可能である”ことが確認された。
- 一部の学校施設（特に、プール棟）の屋根・屋上や外壁に「C評価」が見られたものの、ほとんどの施設が「A評価」および「B評価」であり、緊急的な改修を必要としない状況であった。
- トイレについては、便器の洋式化・床の乾式化に対応していない学校が多く、機能改善・環境向上の視点から早期に改修を行うことが必要である。

## 学校施設のめざすべき姿

## 安全・防災面

## 誰もが安全・安心に利用できる施設

**長寿命化の推進** 計画的に大規模な改修工事を実施し、学校施設の長寿命化を図ります。

**安全性に配慮した整備** 施設の老朽化により生じる、外壁のひび割れや浮きなどによる事故を防ぐため、維持管理手法を「予防保全」にシフトし、安全性の確保に努めます。

## 災害時の拠点として機能する施設

**避難所利用における整備** 避難者の安全を確保するための対策や、避難生活での環境面に配慮した設備の整備など、避難所として機能するよう整備を進めます。

## 学習・生活面

## 多様な学習への対応やきめ細かな指導ができる施設

**学習環境の向上** 多様な学習内容・学習形態に対応できる環境の整備のほか、ICT機器など必要となる設備の整備を進めます。

## 誰もが快適に利用できる施設

**生活環境の向上** バリアフリー化やトイレの洋式化を行うことで、誰もが利用しやすい施設整備を進めます。  
また、普通教室へのエアコン設置を今後段階的に進めます。

## 省エネルギーに配慮した環境負荷の少ない施設

**環境負荷低減への配慮** 省エネルギー機器への更新、内装の木質化などの整備を進めます。

## 複合化・効率化

## 他の公共施設との複合化を視野に入れた地域に開かれた施設

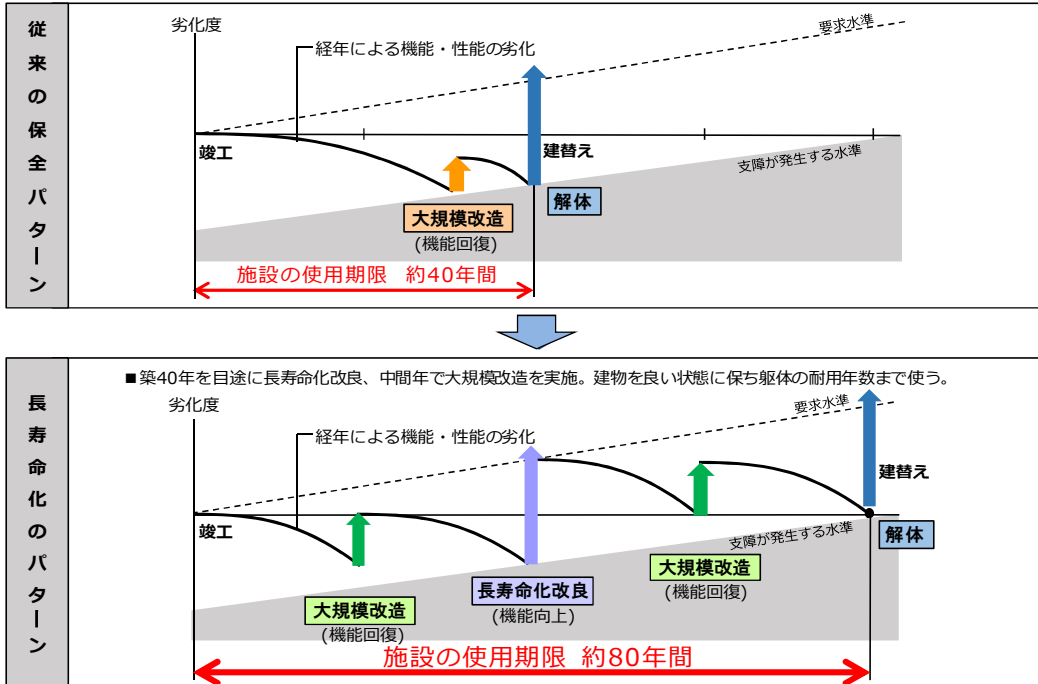
**施設整備費の縮減** 児童生徒数の推移や劣化度合、改修後の使用年数などを考慮した効率的な改修を行います。

**他の公共施設との複合化** 余裕教室の活用にあたり、転用可能なエリア分けや動線の整理など、児童生徒の安全性を考慮した複合化の配置計画を検討します。

**プールのあり方の見直し** 使用時期が限られ、使用頻度に対する維持管理費用が大きいため、今後、学校間での共同利用や学校以外の利用検討も含め、あり方を検討します。

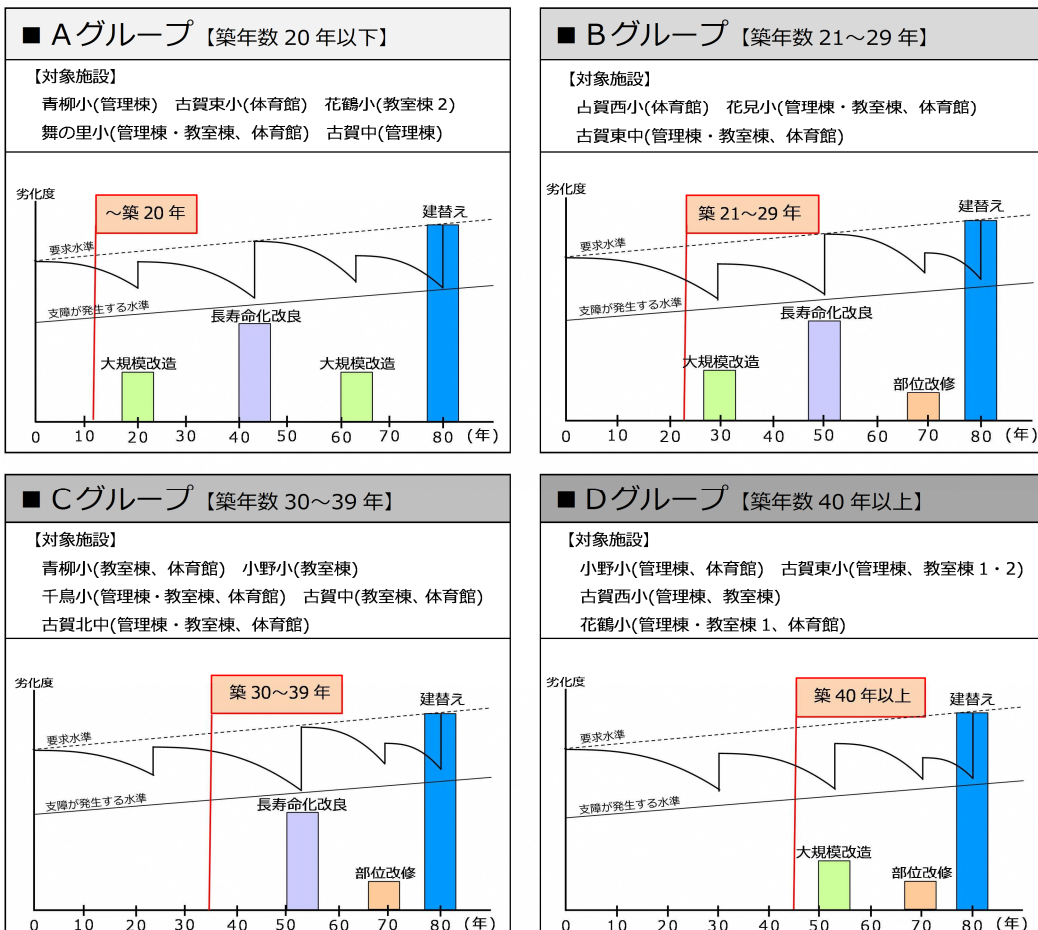
## 目標耐用年数の設定

“目標耐用年数を約 80 年”に延ばす「長寿命化改良」により、求められる安全性・機能性を保ちつつライフサイクルコストを最小限に抑えます。



## 改修周期の設定

“建替え周期約 80 年”を目標として、適切な時期に改修が行えるよう、築年数に応じて A～Dグループに分類します。



**長寿命化改良および大規模改造に関する考え方**

- 限りある予算で老朽化対策を進める必要があるため、長寿命化改良および大規模改造は、校舎、体育館で実施し、その他施設は部位改修にて延命措置を行います。
- 長寿命化改良を行った後は、国庫補助条件として 30 年間使用し続ける必要があるため、既に築 50 年以上経過した学校施設は、大規模改造のみを実施します。
- 大規模改造が未実施である、古賀北中学校(S57 築)、古賀東中学校(S63 築)、花見小学校(H3 築)、舞の里小学校(H9 築)は、計画的に改修を行います。

**部位改修に関する考え方**

- 外壁や外部建具などの落下の危険性がある部位、劣化状況調査で C 評価がある部位などは、部位改修および構造強度の低下を抑制する改修を、今後優先的にを行います。
- 学校トイレについては、児童生徒が衛生的で快適に利用できるよう、平成 30 年代に全学校のトイレの便器洋式化、床乾式化を含めた全面的な改修を行います。

**エアコン設置に関する考え方**

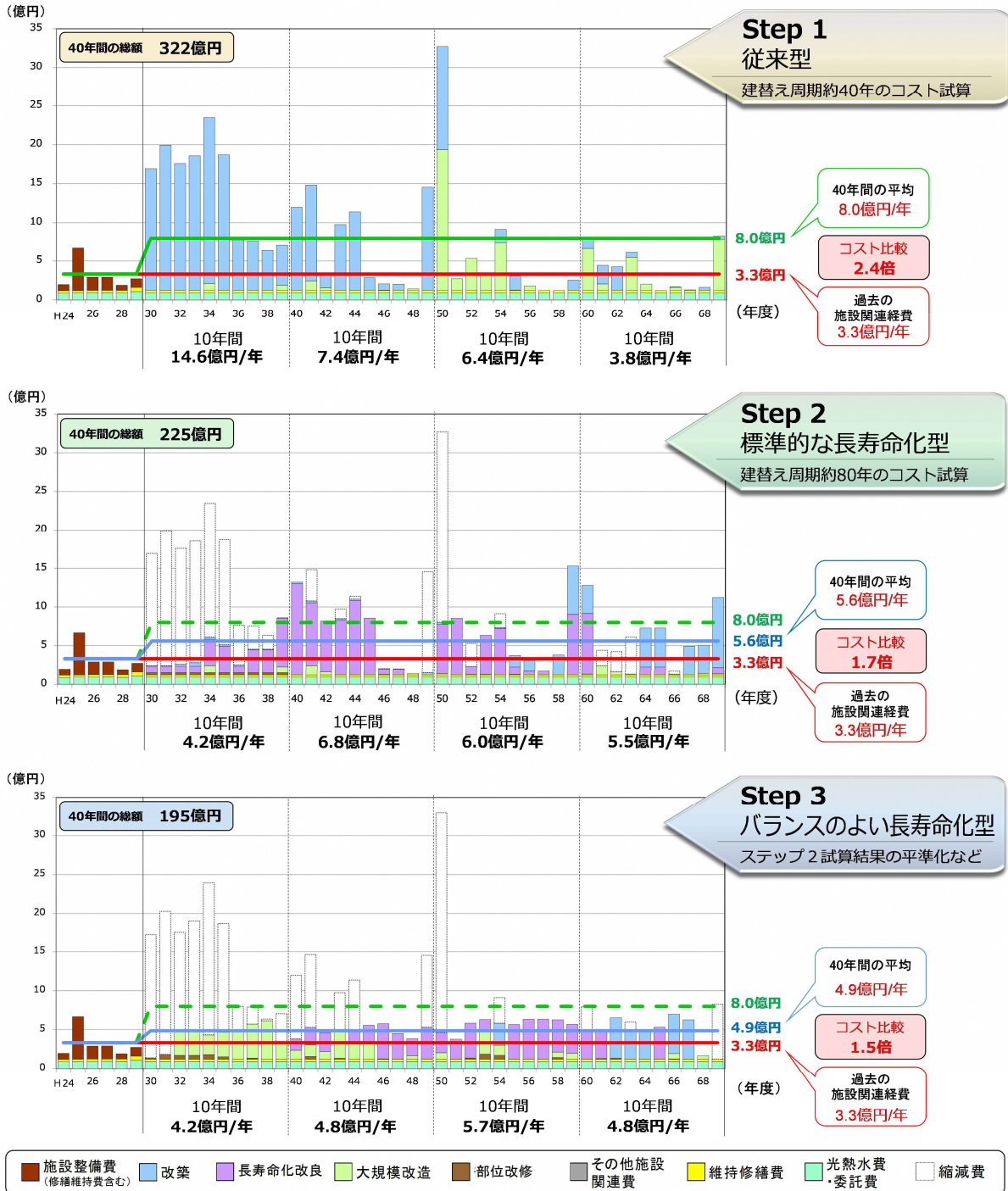
- 普通教室へのエアコン設置については、新たな施設整備となることから、長寿命化改良等とは別に、今後概ね 3 年を目途に整備を行います。

**国庫補助事業に関する考え方**

- 改修などにあたっては、財政支出面での負担を考慮し、国庫補助事業を最大限に活用し財政支出の縮減を図ります。



3つの試算比較による実効性の検証



【検証結果】

いずれの試算も過去5年間の施設関連経費（3.3億円/年）を上回る結果となるが、次のメリットがあることから、Step 3「バランスのよい長寿命化型」を採用する。

- ・「計画的な予防保全」に維持管理手法をシフトすることで、安全に配慮した施設の長期利用が可能。
- ・学校施設の実態を踏まえた「改修等の基本方針」により、計画的な機能向上のための施設整備が可能。
- ・今後の施設関連経費を最も縮減でき、平準化も可能。（従来型と比べて約40%の縮減）

**施設情報の管理と活用**

学校施設の状況や改修履歴などを適切に管理し、施設の実態を把握することで、今後の改修内容や時期などを総合的に判断します。

**推進体制の充実**

関係部署との連携をより一層図り、推進体制を充実させていきます。

**財源の確保**

今後も国庫補助事業を最大限に活用し、財政支出の縮減を図ります。

**フォローアップ**

計画に基づき、適切な維持管理や改修を行うだけでなく、常に施設の実態を把握し、問題点を検証・改善するなど、必要に応じて計画の見直しを行います。



## 古賀市学校施設長寿命化計画（概要版）

平成 30（2018）年 3 月 発行

古賀市教育委員会 教育総務課

〒811-3192 福岡県古賀市駅東 1 丁目 1 番 1 号

Tel：092-942-1131

Fax：092-944-5794